



12月を迎え、今年も残すところ一月となり気の急ぐ思いでおりますが、富士山の美しさには、しばし冬の寒さを忘れます。

私が市長に就任してからの12年の間に東日本大震災や新型コロナウイルス感染症など、かつて経験したことのない事象が重なり社会経済や市民生活の安定に、今も国中が奔走しています。加えて、少子高齢化の問題は大きくのしかかったままです。

あらゆる産業やサービスはそれを利用する一定の人口がいることを前提としているため、人口減少が進むと産業やサービスが維持できず、倒産や事業撤退などで若年齢層が仕事を求めて都市部へ流出するという悪循環が生じてしまいます。また、地方自治体では産業の後退と労働人口の減少により税収が低下する一方で、高齢化が進んで公的介護費用などが増加するため、公的サービスや行政機能の低下も懸念されます。こうした課題を抱えて、「いかに人口減少を緩やかに食い止め持続的に発展するまちをつくるか」全国の地方自治体が必死の努力を続けています。

今ある資産を有効に使って、ほどほどの満足を得ながら将来への種を蒔く、未来の人々と幸せを分かち合うような市政運営ですが、決して待ちの

姿勢ではありません。市勢発展に必要と考える事業には丁寧な説明の上、市民の代表たる市議会の承認をいただき、三島市一丸となって積極果敢に取り組むことが出来ました。

間もなく、三島市長選挙が行われます。市民の皆様の市政に寄せる関心が高くなることは本当にうれしいことです。市政に限らず、何事もあらゆる角度から厳しい目でチェックし的確な判断を下すことが大切ですが、一方でとても難しいことでもあります。特にたくさんの情報が身の回りにあふれる今の時代、自分が手にしている情報が果たして正しいものであるかをよく考えなくてはなりません。多くの人の意見を聞き、確かめることも必要でしょう。私の下にも皆さんの様々な声が届きます。出来る限り正確に、うそ偽りのない返答を差し上げることはもちろんですが、その前提として、私自身が信用に足る者として皆さんの前に立っていること、このことこそが、何より大切なことであると感じています。

仕事でも家庭でも、いつでも真摯に誠実に人と接する者であり続ける、そして市民の皆様の役に立つ者でありたいと願って日々過ごしています。

三島市長 豊岡 武士

共に創る。確かな未来を

市民が主役の街づくり。一人一人の幸せあふれる暮らしを実現する
誇りと愛着を持って暮らすまちへ。



私の決意 ～必ずやり遂げる、4つのこと～

世界中の社会経済が大きな試練の時を迎えています。
智慧と努力と工夫で何としても乗り切らなければなりません。
まさに、リーダーには「判断力」「決断力」「実行力」が求められています。
このような中で三島市が持続的に発展し、5年・10年・30年先の市民生活を
しっかりと支えられるよう、「どうしても私の手でやり遂げなければならないことがある」と
強く決意しております。



決意1

コロナ禍やウクライナ紛争による
物価高騰などに対応した
経済対策を強化し、
市内事業者のレジリエンスを
支援するとともに
市民の生活を絶対に守ります

決意2

市民の大きな期待に応え、
三島駅南口東街区の再開発を
責任をもって成し遂げ、
投資を呼び込む「稼げるまち」、
にぎわいと交流から生まれる
「幸福を引き寄せるまち」を創り上げます

決意3

大場地区の都市的土地利用への転換、
玉沢地区への医療・健康関連産業の
誘致など働く場を更に創出し働く世代を
呼び込むとともに、税収を確保して、
子ども・若者たちの未来のために
しっかりとした財政基盤を創り上げます

決意4

行政や中小企業のDX(デジタル変革)を
官民挙げて強力に推進し、
デジタル田園都市を実現することにより、
市民生活の向上と地域経済の発展、
働き方改革を図ります

これまで県政・市政の現場で培った行政のプロとしての経験、大きな責任と信頼をもって
内外で築上げた人脈など、持てる力のすべてを注ぎ込み、3期12年で示した実現力を
さらにパワーアップして4つの決意を必ずやり遂げます。

豊岡たけしの目指す三島の未来

人と人がつながり、共に考え、共に創る
みんなのwell-beingを創造する

健康・幸福・福祉



にぎわいと交流の
創出による地域経済の活性化
ひとがつどうまち



地域の活力を支える
いきがいをみつけるまち



生産年齢人口を緩やかに保つ
こどもとくらすまち